

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

平成 30 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号を送付します。

---

平成 30 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

1. 害虫名 サクセスクイムシ (*Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg))

2. 発生作物 なし

3. 発生経過

平成 30 年 8 月下旬、県中央部のなし果実に直径 1 mm 程度の小さな穴(穿孔)を生じる被害(写真 1)が確認され、その穴の内部にはクイムシの成虫(写真 2)が認められた。神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、サクセスクイムシであることが判明した。

本種によるなし果実被害について栃木県、愛知県、愛媛県など 6 県から特殊報が発出されている。

4. 形態・生態

雌成虫の体長は 1.9~2.2mm、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色をしている。

年 1~2 回発生し、成虫態で樹内越冬する。成虫は、翌年 4~5 月に脱出して樹勢の弱い衰弱した樹の枝幹に穿孔する。孔道の直径は約 0.7mm で、そこから粉状の細かな木屑(フラス)を排出する。

本種の寄主範囲は広く、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類では、なしの他に、りんご、もも、かき、くり、キウイフルーツの枝幹部への穿孔被害が確認されている。

5. 被害状況

成虫がなし果実へ穿孔し被害果を生じる。被害果は、日数の経過とともに穿孔部分を中心に腐敗し、穿孔部分を中心に一様に褐変する。断面を観察すると穿孔部分以外に空間が見られないのが特徴である。また、果実被害は、袋掛け後にも発生し、特に過熟果で多い傾向にある。

6. 防除対策

1) 果実は、過熟にならないよう適期に収穫する。

2) 樹勢の衰えた樹は加害を受けやすいので、適正な肥培管理により樹勢の維持、回復に努める。  
また、穿孔が多く、衰弱の激しい樹は主幹部が残らないように伐採し、剪定した枝幹等も含めて適切に処分する。

3) 被害果を確認した場合は、周辺に枝幹の穿孔被害も発生している可能性が高いので、木屑(フラス)を目印に観察する。枝幹被害を確認した場合は、トラサイド A 乳剤(200 倍、4~7 月、但し収穫 21 日前まで、5 回以内)を樹幹部へ十分量散布する。なお、薬液が葉に付着すると葉害を生じるおそれがあるので注意する。

お問合せは、病虫害防除所(TEL:088-863-1132)または環境農業推進課(TEL:088-821-4861)まで



写真1 果実の被害痕



写真2 成虫